

去った冬トピックス

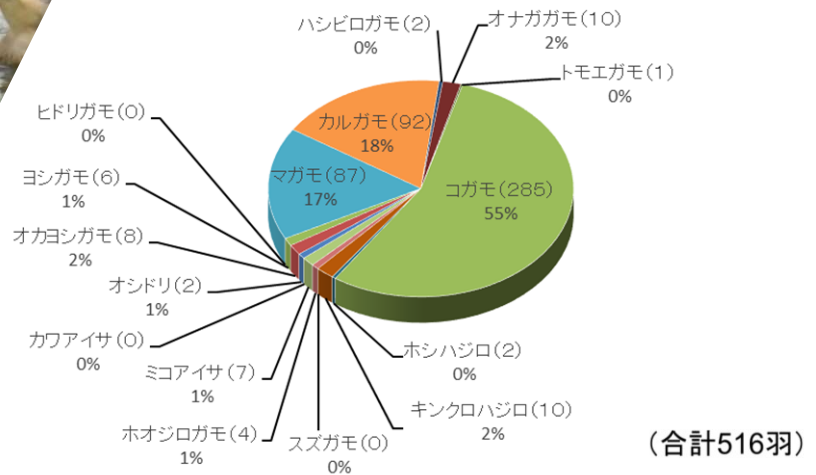


ガンカモ類、越冬終～了！

あきる野周辺で越冬するガンカモ類のカウント調査は今年で5年目になり、3月で今期の記録も終わります。

今年は予報通りの暖冬だったため、ガンカモ類は平年よりも少なかったようです。データは個体数の減少傾向を示す可能性もあるため、今後の動きと比較する必要があります。以下は今期のガンカモ類各種類の最大個体数のグラフです。

各種類の最大個体数



仲間に入れて「トモエモエ君」

これまでの調査でトモエガモという希少種に出会えたのは、今期の1回だけです。運良く雄個体で、繁殖に向けて見た目もばっちりでした。川にいたマガモやカルガモの群れに交じっていたので、双眼鏡でよく見なければ、コガモと勘違いしてしまうところでした。渡り中の個体とみられ、あきる野では数日のみの滞在でした。



(上)秋川の河川敷。川が流れる道が変わっている場所がみられます。また、河原の散策路は、多くの場所で被害を受け、コンクリートの土台などが流されているところや復旧工事のため歩けない区間もあります。

(右)大岳沢の登山道の様子(昨年12月19日撮影)。登山道の最新状況については、市役所や東京都などの関係機関への問い合わせをおすすめします。

引き続き、台風の影響

昨年の台風19号などの影響により、まだ復旧していない登山道や散策路が多く残っています。時間が経ち、沢などの流れも落ち付いているため、安定している場所もありますが、歩きにくいところや通行不可能な道もあるため、入山の前に情報を収集し、しっかりと登山計画等を立ててお出かけください。



来た春トピックス

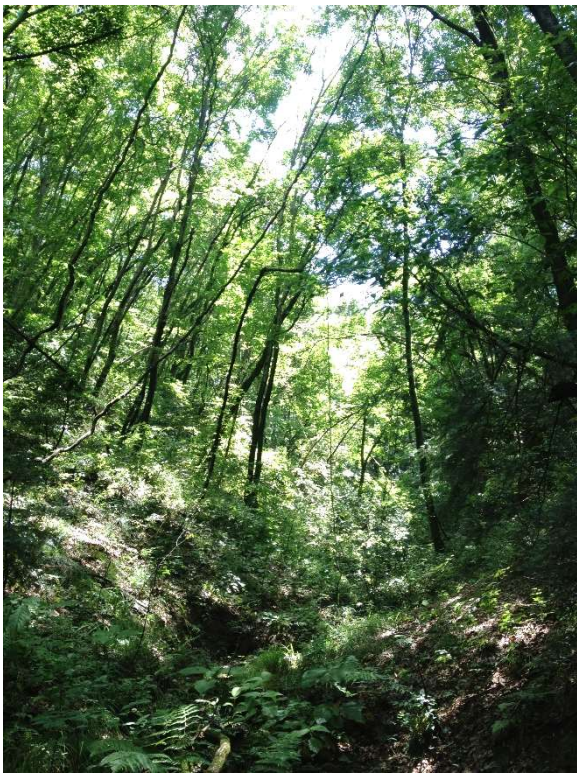


池はいかがですか！

昔は、湧水や谷津田、湿地などの止水系の水場が今よりもずっと数多く存在していたとされます。そのような水場は、トウキョウサンショウウオやアカハライモリ、ヤマアカガエル、ニホンアカガエル、アズマヒキガエルなどの両生類の産卵場所となっているため、水場が消滅していくと、このような生き物も繁殖できず、激減してしまいます。

レンジャーの自然保護活動の一環として、あきる野の水場を復活させたり、整備している場所があります。水場を整備したら、数年でたくさんの両生類やトンボ、水生昆虫などがその場所に依存するようになります。その生き物たちは、今度、森などで分散し捕食者の獲物になるなど、自然のバランスを保つために意外と重要な存在になります。

民家の裏には、昔使われていた湧水や池、井戸などが眠っていることが少なくありません。自然のため、楽しむために自分の敷地でそのような水場を復活させ、減ってしまった両生類などの貴重な生き物を増やしている人もいます。望む方は、是非、マイ水場を掘ってみてください。きっと自然に恵まれます！



「プオー、プオー、プオー…」のとき

4月になると、あきる野に夏鳥の飛来が相次ぎます。そんな中、森に隠れてあまり姿を見せないのに、里山の忍者と言っても過言ではない希少な「ミゾゴイ」も飛来します。

うっそうとしている森を好むので、割と整備不足や手付かすの丘陵地や谷間などの生い茂る森に生息します（左写真のような環境）。見通しの悪い林内でミズなどを採餌しながら行動し、急斜面の樹木に営巣します。人は、その存在に気付きにくいので、森林整備などで営巣木を伐採したり、採餌環境を改変したりすることもあるため、生息に影響を与えることがあります。

これからの時期は繁殖に向けて、夜中に「プオー、プオー…」、または「プー、プー…」と鳴きます。フクロウと勘違いされることもよくある奇妙な鳴き声です。あなたの近くの裏山にもいるかもしれませんので、ミゾゴイの鳴き声に耳を澄ましましょう。



(上)あきる野周辺で見たミゾゴイ

(左)ケヤキに作られたミゾゴイの巣

